

11月7日8時40分 CRT スタジオで収録

## 大学進学後、最も必要なのは、授業時間の2倍の時間、授業の予習・復習をする自己学習能力

開倫塾

塾講 林明夫

1. (1) ①文部科学省は、2022年10月に大学設置基準を改正。  
 ②講義1単位当たり教室での講義と予習、復習で、  
 ③合計45時間の学修を必要とする」と、量的基準を定めました。大学の標準である半期2単位(15回)の科目の場合、90分授業で授業後合計時間は、22.5時間。
- (2) ①文科省の基準で考えれば、2単位の教科は合計90時間の学修が必要。  
 ②2単位の教科では、大学生は、講義以外、1教科あたり、67・5時間の学修(予習・復習)が求められます。  
 ③90分、1回の授業について、講義以外、4時間30分の学修(予習、復習)が求められます。
- (3) ①これは、大学の難易度に関係なく、すべての大学に求められます。  
 ②2学期制の場合、各学期、2単位の授業を、週に8教科履修したら、授業以外に32時間の予習・復習、1日5時間20分(週6日なら)が求められます。  
 ③なぜ、文部科学省は、日本中のすべての大学に1単位当たり45時間の学修を必要とするという、量的基準を設けたのか。  
 ○世界の大学に劣らないだけの、日本の最高学府、高等教育機関としての、厳格な評価による、質の向上を、日本の全ての大学に求めているためと考えます。
2. (1) ①その学期に8単位履修する場合、授業以外に、一週間で、32時間の「予習・復習」ができるか。  
 ②週に6日、毎日、勉強するとして、1日、6時間弱、机に向かって、授業の予習・復習をすることができるか。  
 ③よくわからないことがあった場合に、大学図書館で、文献を参照し、授業に役立てることができるか。
- (2) ①普段の予習・復習とは別に、1教科、15回の授業終了後に課される、各教科の学期試験で、及第点を取り、単位を取得できるか。  
 ②必修教科をすべて履修し、すべて及第点を取り、単位を取得し、進級し、卒業することができるか。



③これがすべての大学生に課せられた、最大の課題です。

(3) ①この大学設置基準は、入学試験の難易度には全く関係なく、日本中のすべての大学に適用されます。

②これに違反する大学は、補助金が出なくなり、設立認可を取り消されます。

③大学の経営者である理事長、学長は、学部長、学科長、大学の先生方すべてに、この遵守を求めます。

○大学の先生方は、非常勤講師の先生方も含め、しっかり毎回の授業に臨むと同時に、毎回、所定の時間、予習・復習をするよう、課題を出し続けます。アクティブラーニングで、十分に、その成果を発揮することを、学生に求めます。



3. (1) ①このような厳しい大学の現実に対応するために、大学に進学を希望する受験生は、どのような力を受験勉強中に身につけたらよいか。

②中学、高校で学ぶ際にも、各学年で学ぶ教科について、しっかり、予習し、復習する「学習習慣」を身につけることが重要です。

③「予習の仕方」「復習の仕方」をしっかり、「小学生」「中学生」「高校生」のうちから、身につけること。



(2) ①これに加えて、何のために予習をするのか、何のために復習をするのか、「予習の価値(大切さ)」「復習の価値(大切さ)」を、しっかり「認識(理解し、自覚する)」ことが重要です。

②「予習」「復習」に加えて大切なのは、「理解」した内容を「身につける」「定着させる」具体的な方法を身につけることです。

③「音読練習(暗唱)」「書き取り練習(暗記)」「計算・問題練習」などを、「学習習慣」として身につけ、「大学生、大学院生、社会人になっても実行し続けること」です。



(3) ①小学校、中学校、高校で「予習」「復習」をしっかり行うことは、大学での勉強(予習、復習)に役立ちます。社会に出てからも役に立ちます。

②小学生、中学生、高校生の時に、「予習」や「復習」をしたことがない場合には、大学生になって初めて「予習」「復習」をすることになりますので、なかなか、体がついていかず、「予習」「復習」をしないで、授業だけ受けることが多く、なかなか、授業が理解できず、テストでも点数が取れません。

○単位が取れず、留年や退学の原因となります。

③「予習」「復習」の「価値(大切さ)」に、気が付いた時からで OK ですから、少しずつ、「授業」の「予習」「復習」をしてみてくださいね。

○大学や、社会に出てからも役位立つ、「予習の仕方」「復習の仕方」は、この「開倫塾の時間」でじっくりお話しいたします。お楽しみに。

